



自分の強みを理解する

(Vol.0.1)

2012年 4月24日 佐藤 創

更新履歴

版数	日付	内容	担当
0.1	2012/4/24	新規作成	佐藤 創

●カリキュラムの全体像と今回の講義の位置づけ

仕事への挑戦プロセス

個人

組織

できること

やりたいこと

価値を感じること

キャリア・ビジョン
ジョブ・デザイン

目的・目標を達成する

リーダーシップを発揮する

自分の才能・強みを理解し、
自分の価値観を掘り起こすことで、
目的・目標を定める

モチベーションを高める

問題意識を持つ

目次

- 1. 強みとは何か
 - (1) 仕事の特徴と、強みを活かすことの意味…………… 5
 - (2) 強みと才能の関係…………… 6
 - エクササイズ①…………… 7

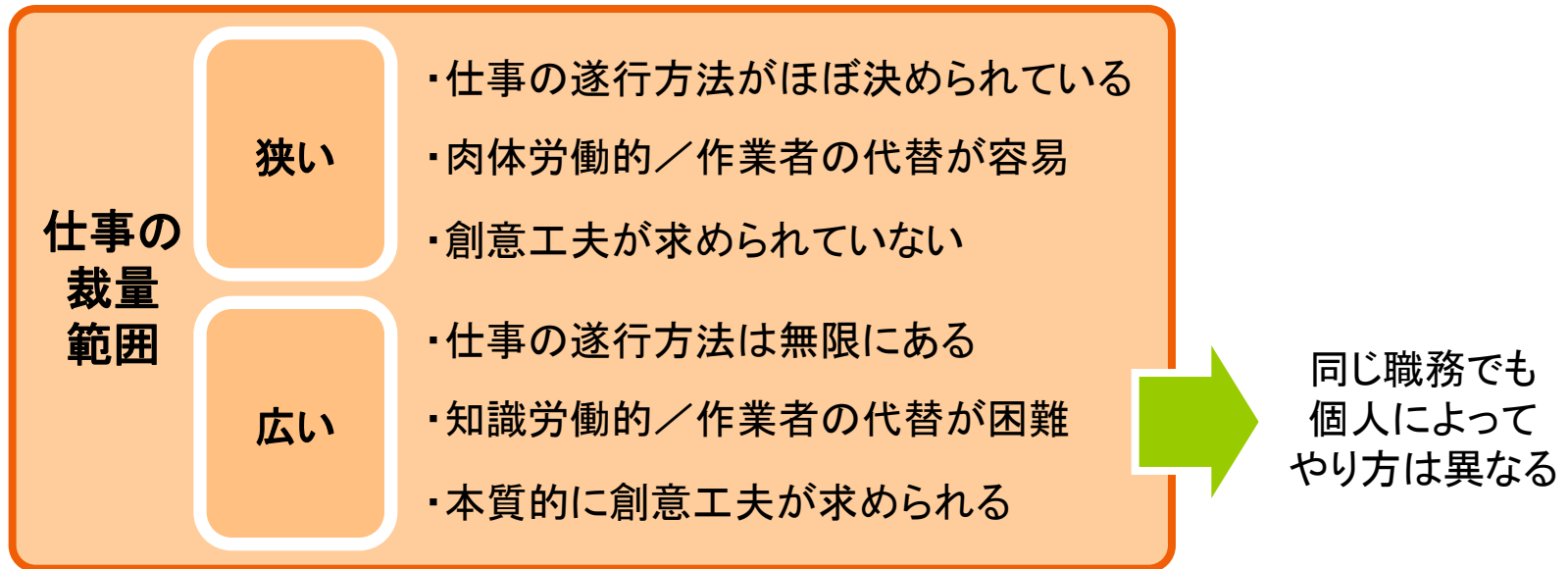
- 2. 自分の才能を知る
 - (1) ストレngthス・ファインダー…………… 8
 - (2) 24の性格的強み(キャラクターstrengthス)…………… 8
 - (3) キャリアアンカー…………… 8
 - エクササイズ②…………… 12

- 3. 自分の才能に基づいた価値観を探る
 - (1) 価値観をジョブ・デザインに組み込む…………… 13
 - エクササイズ③…………… 16

- 4. 参考文献…………… 17

1. 強みとは何か(1/3) (参考文献[1])

(1) 仕事の特徴と、強みを活かすことの意味



ここを創意工夫することで、より大きなアウトプットを、より早く獲得する

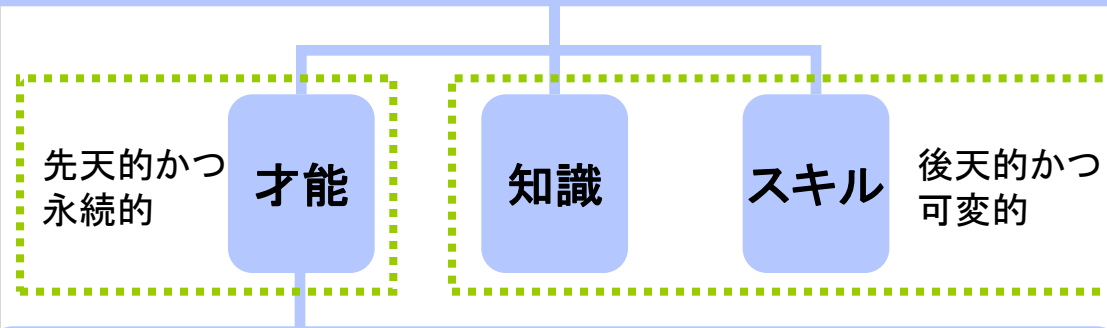
- ⊕ 創意工夫は終わりのないサイクルであり、ある程度は属人的な仕事となる。
- ⊕ 「何をやるか」は同じでも、「誰がやるか」でアウトプットが大きく変わる。
- ⊕ 自分の「得意なやり方」「好きなやり方」=強み を活用して工夫したほうが成果も大きい。弱みを克服するのは単なるダメージコントロール。克服できればそれに越したことはないが、その分野で卓越することは不可能。

1. 強みとは何か(2/3)

(2) 強みと才能の関係

(参考文献[1])

⊕ 「強み」とは、いつも周囲が納得する成果を生み出す能力



⊕ 「才能」とは繰り返し無意識に行う思考や行動のパターン

⊕ 他人との差別的な違いそのものを「才能」と呼ぶ

- ・人前に立っても緊張しない
- ・物事のマイナス面がすぐに思い浮かぶ
- ・頭の中で自問自答してしまう
- ・ストレスが多少かかっても我慢できる

他人にとっては「意識的」に訓練を要する事柄なのに、無意識のうちに行えていることの全てが「才能」である。

「才能」は脳の神経回路のパターンであり永続的に続く。本人は無意識のうちに行っていることなので、それが「才能」なのだとは気がつかないことが多い。才能とは特別な能力ではあるが、誰にでもある相対的・差別的な特徴のことである。

ある特徴がAさんにはなくてBさんにだけあるとしたら、その特徴についてはBさんが才能があるということだが、その特徴がないことで、別の特徴がAさんにあるとしたら、それはAさんの才能。

相対的。内向的←→外向的、長所←→短所 といった関係と同じ。

- ・才能を活かせる仕事をする、無意識のうちに差別的な能力を発揮するので、相対的に高い成果を上げることができる。
- ・自分の才能に気づいてそれを意識的に活用することが強みを築く第一歩。
- ・才能は価値観とも近い概念。

1. 強みとは何か(3/3)

エクササイズ①あの人の特徴は先天的？後天的？

【エクササイズ①】 他人の特徴、または自分の特徴は先天的か後天的かを考えてみよう。

◆質問1

・他人の長所や強みと思える具体的な事象について、本人に、それが先天的に備わっていたものなのか、もしくは後天的に知識やスキルを身につけたのかを聞いてみよう。

・その特徴や長所が備わっている理由や経緯をきちんと説明できるのなら、後天的に身につけた可能性が高い。逆に、理由や経緯を説明できなかったり、なぜか知らないがそのように感じる、といった回答なら先天的である可能性が高い。

◆質問2

・才能は自分の価値観とも近似する。自分がこうありたいと考えること、もしくはこうなりたくないと思うことについて、なぜそのように考えるのかを自己分析してみよう。すると、理由が説明できず先天的な要素である場合がある。そうなると、その価値観は、才能と同義(脳神経のパターン)であると言う事ができるかもしれない。

2. 自分の才能を知る(1/2)

(1) ストレngthス・ファインダー

<http://www.strengthsfinder.com>

強みになり得る最も優れた潜在能力の源泉を見つける方法。
(ストレngthス・ファインダーを利用するには、文献[1](「さあ才能に目覚めよう」が必要)

(2) 24の性格的強み(キャラクターストレngthス)

<http://www.viasurvey.org>

人間の文化的背景に関わらず人の繁栄に最も貢献する「24の性格的強み」を特定する。

(3) キャリアアンカー

キャリアの拠り所を探る方法。
(キャリアアンカーを診断するには、文献[4](キャリアアンカー)が必要)

サンプル：（参考文献[1]）

・ ストレングスファインダーの上位5位の資質

順位	資質
1	内省 あなたは考えることが好きです。あなたは頭脳活動を好みます。あなたは脳を刺激し、縦横無尽に頭を働かせることが好きです。ある意味で、あなたは自分自身の最良の伴侶です。あなたは自分自身にいろいろな質問を投げ掛け、自分でそれぞれの回答がどうであるかを検討します。
2	着想 着想とは、ほとんどの出来事を最もうまく説明できる考え方です。あなたは複雑に見える表面の下に、なぜ物事はそうなっているかを説明する、的確で簡潔な考え方を発見すると嬉しくなります。他の人たちはあなたのことを、創造的とか独創的とか、あるいは概念的とか、知的とさえ名付けるかもしれませんが。確実なのは、着想はあなたにとってスリルがあるということです。そしてほとんど毎日そうであれば、あなたは幸せなのです。
3	収集心 あなたは知りたがり屋です。あなたは物を収集します。あなたが収集するのは情報——言葉、事実、書籍、引用文——かもしれません。集めるものが何であれ、あなたはそれに興味を引かれるから集めるのです。そしてあなたのような考え方の人は、いろいろなものに好奇心を覚えるのです。
4	責任感 あなたは責任感という資質により、自分がやると言ったことに対しては何でもやり遂げようという強い気持ちを持ちます。それが大きかろうと小さかろうと、あなたは完了するまでそれをやり遂げることに心理的に拘束されます。あなたの良い評判はそこから来ています。
5	未来志向 未来はあなたを魅了します。まるで壁に投影された映像のように、あなたには未来に待ち受けているかもしれないものが細かいところまで見えます。この細かく描かれた情景は、あなたを明日という未来に引き寄せ続けます。この情景の具体的な内容——より品質の高い製品、より優れたチーム、より良い生活、あるいはより良い世界——は、あなたの他の資質や興味によって決まりますが、それはいつでもあなたを鼓舞するでしょう。あなたは、未来に何ができるかというビジョンが見え、それを心に抱き続ける夢想家です。

サンプル：（参考文献[2]）

・性格的強み（キャラクター・ストレングス）の 上位5位と最下位

順位	性格的強み
1	創造性 [独創性、創意工夫] 物事を行うのに目新しい、生産性の高いやり方を考える力。 創造性について— 新しいやり方を考えることはあなたがどういう人間かということの重要な要素となっています。より良い方法が可能である限り、あなたは従来のやり方では決して満足することがない人です。
2	希望 [楽観性、未来志向] 未来における最高のものを期待して、それが達成できるように努力する。良い未来がもたらされると信じる。 希望について— あなたは未来における最善のものを期待して、それが達成できるように努力する人です。未来は自分の意思で切り拓いていくことができるものだと信じています。
3	忍耐力 [我慢強さ、勤勉さ] 始めたことを最後までやり遂げる。困難にあっても粘り強く前進し続ける。 忍耐力について— あなたはやり始めたことをやり遂げようと一生懸命に努力する人です。どんな課題であろうと必ずきちんと完成させます。
4	柔軟性 [判断力、批判的思考力] あらゆる角度から物事を考え抜いて検討する。決して安易に結論に飛びつかない。証拠に照らして判断を変えることができる。あらゆる証拠に対して等しく重きを置く。
5	スピリチュアリティ [宗教性、信念、目的意識] より高次の目的や、森羅万象の意味について、一貫した信念を持つ。より大きな枠組みの中で自分がどこに 適するのかを理解している。
24	慎み深さ／謙虚さ 自分の業績を自慢せず、自ずから明らかになるのに任せる。自分自身が脚光を浴びることを求めない。ありのままの自分以上に自分のことを特別だとは考えない。

サンプル：（参考文献[4]）

・キャリアアンカーの上位5つと最下位

順位	キャリアアンカー
1 (5.4)	純粋な挑戦 (Pure Challenge) 彼らの定義する「成功」とは、不可能と思えるような障害を克服すること、解決不能と思われてきた問題を解決すること。彼らは上達するに従って、それまで遭遇したことの無い手ごわい相手に挑戦を挑んでいくようになる。こうした人たちは、自分が上達していくために、既に相当のレベルまで動機付けられている。
2 (5.2)	自律・独立 (Autonomy/Independence) どんな仕事に従事しているときでも自分のやり方、自分のペース、自分の納得する仕事の標準を優先させる。彼らは自分の望む条件に合う、会社からは独立したキャリアを指向する。彼らは常に自分自身の船の船長でなければならないという認識を持っている。
3 (5.0)	全般管理コンピタンス (General Managerial Competence) 経営管理そのものに関心を持ち、ゼネラル・マネジャーに求められるコンピタンスを身につけている。彼らは、組織の階段を上り、責任ある地位につきたいという強い願望を抱いている。その立場に立って組織全体の方針を決定し、自分の努力によって組織の成果を左右したいという願望を持つ。
4 (4.8)	起業家的創造性 (Entrepreneurial Creativity) 新しい製品やサービスの開発するなどして事業を再編し、新しい事業を起す欲求を人生の早い時期から他の何よりも強く意識している。このグループが持っている創造的な衝動は、自分自身の努力によるものであることが認識でき、自分自身の生み出したものとして存在し、経済的に成功することが重要と感じている。
4 (4.8)	専門・職能別コンピタンス (Technical/Functional Competence) 自分の才能を発揮し、専門家(エキスパート)であることを自覚して満足を覚える。
8 (2.0)	保障・安定 (Security/Stability)

目指すキャリアの1つ＝経営コンサルタント

⇒現職からのチェンジ・難易度の高い試験・資質が必要・難しい経営課題を解決したい(純粋な挑戦)、自律的な専門家・組織に縛られない(自律・独立)、経営管理全般知識に詳しい・経営管理そのものが好き(全般管理コンピタンス)、コンサルとして独立・起業・組織化したい(起業家的創造性)、コンサルティングの技法やスキル・知識を極めたい(専門・職能別コンピタンス)

2. 自分の才能を知る(2/2)

エクササイズ②自分の才能を知る

【エクササイズ②】

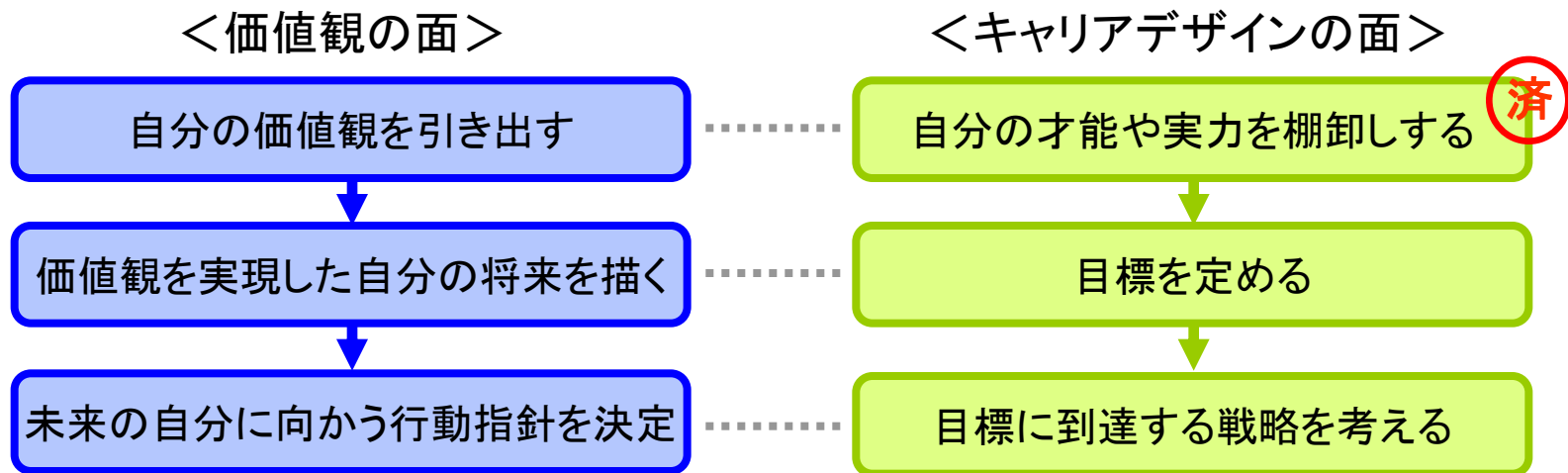
ストレングスファインダー、キャラクターストレングス、キャリアアンカーの分析を通じて、自分に共通する才能や価値観を探ってみよう。

◆質問1

- ・ストレングスファインダー、キャラクターストレングス、キャリアアンカーを知ろう。
- ・3つの分析結果を見て、どんな共通点があるのか、自分の才能は何なのかをまとめてみよう。

3. 自分の才能に基づいた価値観を探る(1/2)

(1) 価値観をジョブ・デザインに組み込む(参考文献[3])



● 自分の価値観を引き出す(参考文献[3])

これまでの自分の歴史を整理し、自分が追及するテーマを発見する。過去に答えがある。把握した自分の才能について以下の手順に沿って価値観をまとめていく。

手順1: 最も価値観が表れるのは至高体験。最も充実感を得た体験、感動した体験、心から楽しめた体験、ワクワクした体験を、付箋に書き出す。

手順2: 付箋をグルーピングしていく。KJ法と同じ。グループ化したら、一言でグループのコンセプトが表現できるタイトルを付ける。

手順3: グルーピングした全てのグループのタイトルを総括して、それを価値観を表現する1つの文章にする。

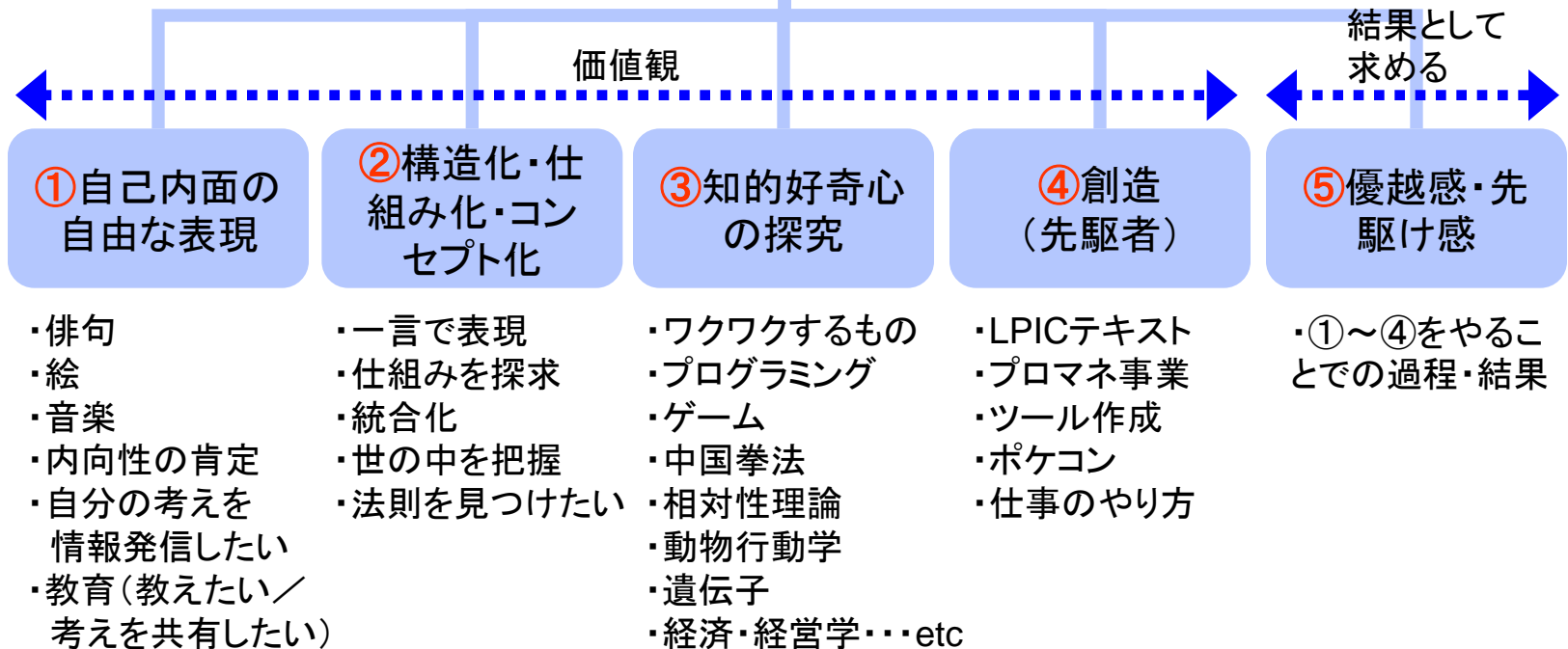
(手順4: 価値観を表現する1つの文章を、さらにコンセプト化する。)←これはできるならやってみる。

サンプル：（参考文献[3]）

・自分の価値観を引き出す（1／2）

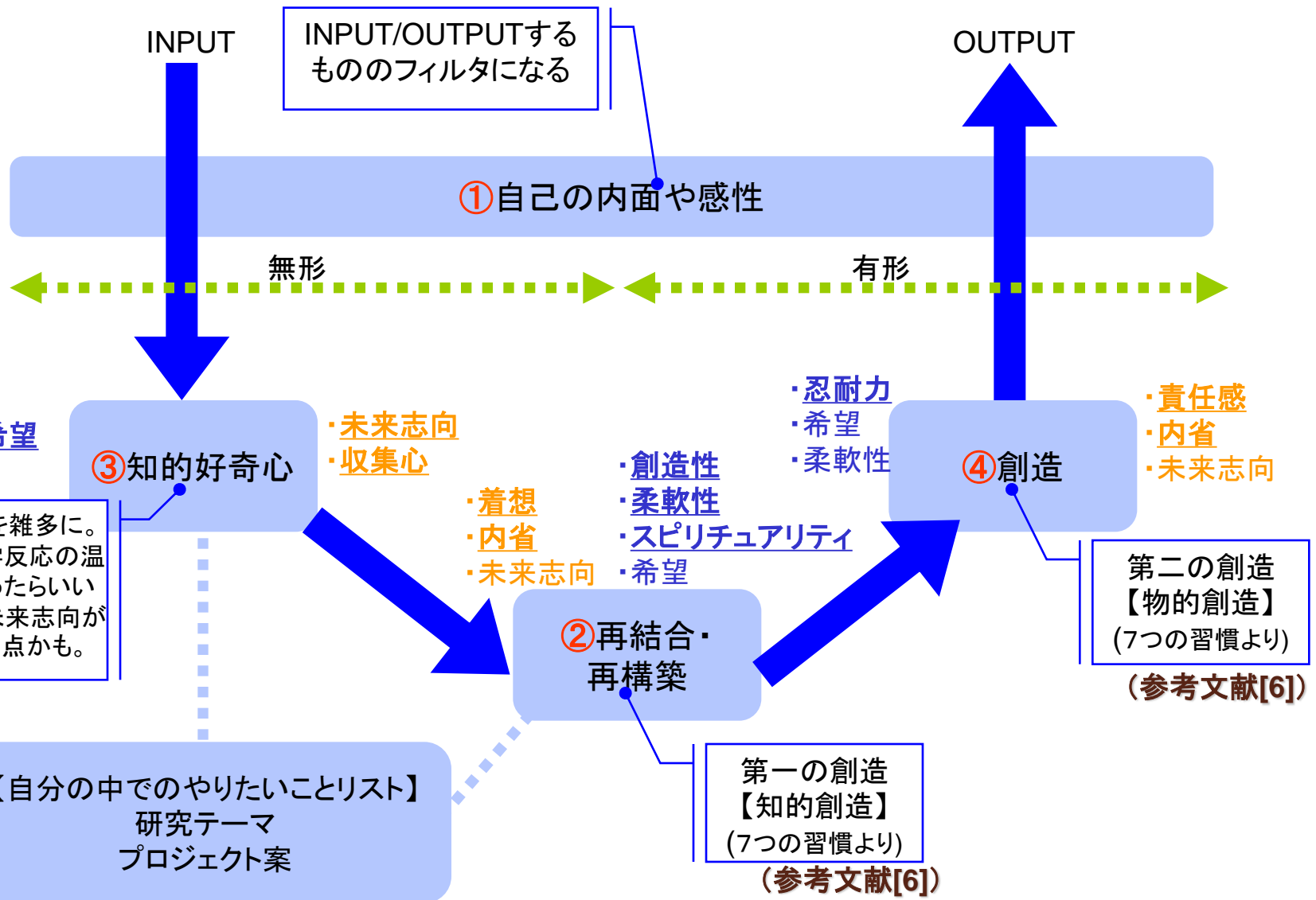
①自分の感性を十分に発揮した、④創造的なものを作り上げていきたい。そのためには、③知的好奇心を感じる事象をベースとしてインプットし、それを②再構築・再結合することで、創造のアイデアとする。

またこれらの活動の過程で⑤「優越感・先駆け感」を感じて満足し、活動の結果として「認められる⇒社会的地位の向上」を求める。



サンプル:

・自分の価値観を引き出す(2/2)



3. 自分の才能に基づいた価値観を探る(2/2)

エクササイズ③自分の価値観を引き出す

【エクササイズ③】

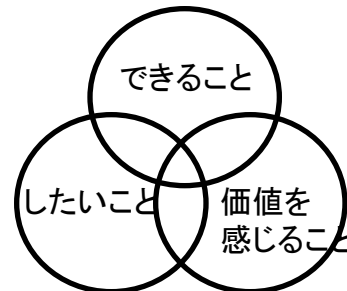
手順に従って自分の価値観を引き出してみよう。

◆質問1

- ・自分の価値観をまとめて、自分で納得できるものを引き出してみよう。自分で「確かにこんなことをやりたかったんだ」と納得できるものを目指す。
- ・各メンバの価値観を見て、他の人を理解しよう。

◆質問2

- ・自分のキャリアの方向性を考えてみよう。基本的な方向性としては、①できること、②したいこと、③価値を感じること、の3つの円が重なったキャリアがベストである。したいことがあってもスキルがない(できることに重ならない)などの課題が見えてくれば、そのキャリアに向かって行動すべき第一歩が見つかるはずである。



4. 参考文献

- [1] マーカス・バッキングラム & ドナルド・O・クリフトン, さあ才能に目覚めよう, 日本経済新聞出版社, 2001年
- [2] ショーン・エイカー, 幸福優位7つの法則, 徳間書店, 2011年
- [3] グロービス・マネジメント・インスティテュート, ビジネス・リーダーへのキャリアを考える技術・つくる技術, 東洋経済新報社, 2001年
- [4] エドガー・H・シャイン, キャリア・アンカー, 白桃書房, 2003年
- [5] 佐々木直彦, キャリアの教科書, PHP研究所, 2003年
- [6] スティーブン・R・コヴィー, 7つの習慣, キングベアー出版, 1996年
- [7] 齋藤毅憲(監) / 菊池達昭・合谷美江(編著), キャリア開発論, 文真堂, 2007年